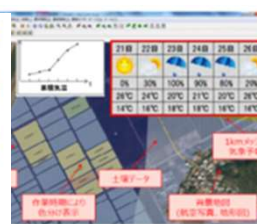


【3 スマート農業技術を活用した「営農体系モデル」】

⑤果樹（露地かんきつ）

現状と課題	目指すべき姿	スマート農業機械														
<ul style="list-style-type: none"> 本県の果樹栽培面積の約5割は露地かんきつであり、今後、需要の高い高糖度系かんきつ等の産地化が重要となるが、かんきつは重量があり、生産者の収穫作業等の負担が非常に大きいこと、また、収穫期間が集中するため経営面積が制限されること等から、今後はロボット技術の活用が重要。 高品質・安定生産体制の構築に向け、根域制限栽培の導入や品種の転換が進展する一方、農地環境推定システムなどICTの活用事例は少ないことから、生産性向上の新技術の普及が必要。 優良農地の集積や基盤整備の推進を見据えた技術の導入が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> アシストスーツやドローンなどロボット技術の導入による管理作業の軽労化により、かんきつ産地の再編の加速化を実現 農地環境推定システムなどICT活用による生産性向上の新技術を普及 農地集積等に伴う作業の自動化・効率化を実現 条件の悪い急峻な団地から水田や平坦地への改植を推進 想定される栽培規模：1ha以上 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>導入機械名</th> <th>参考価格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ リモコン式自動草刈機</td> <td>100～330万円</td> </tr> <tr> <td>○ ドローン</td> <td>200万円～</td> </tr> <tr> <td>○ 農地環境推定システム</td> <td>30万円～</td> </tr> <tr> <td>○ 営農管理システム</td> <td>～10万円</td> </tr> <tr> <td>○ アシストスーツ</td> <td>腰:2.5～150万円、腕:6～12万円</td> </tr> <tr> <td>○ AI選果機</td> <td>開発中</td> </tr> </tbody> </table>	導入機械名	参考価格	○ リモコン式自動草刈機	100～330万円	○ ドローン	200万円～	○ 農地環境推定システム	30万円～	○ 営農管理システム	～10万円	○ アシストスーツ	腰:2.5～150万円、腕:6～12万円	○ AI選果機	開発中
導入機械名	参考価格															
○ リモコン式自動草刈機	100～330万円															
○ ドローン	200万円～															
○ 農地環境推定システム	30万円～															
○ 営農管理システム	～10万円															
○ アシストスーツ	腰:2.5～150万円、腕:6～12万円															
○ AI選果機	開発中															



リモコン式自動草刈機

- リモコン式自動草刈機によって、草刈り作業を無人化し、草生管理に係る作業時間を約80%削減

ドローンによる農薬散布

- ドローンを活用した農薬散布によって、防除の負担を軽減し、作業時間を約40%削減
- 急傾斜地での防除作業を軽労化

農地環境推定システム・営農管理システム

- 農地の精密な気象環境を安価に推定できるシステムの導入によりほ場ごとの気象環境に応じた最適技術の導入や栽培管理が実現可能（黒点病防除情報等）
- 営農・労務管理システムの導入でほ場ごとの作業実績を見える化
- 記録情報を基に労力の適正配分や作業の標準化等により、作業時間を約30%削減

アシストスーツ

- 収穫物の持ち上げ・下げ時に腰や腕にかかる負担を軽減
- 負担軽減に伴い作業時間を20～30%短縮

AI選果機

- AI選果機の導入によって、家庭選果の労力を軽減し、作業時間を約80%削減

労働時間の削減	↓	80%
---------	---	-----

労働時間の削減	↓	40%
---------	---	-----

労働時間の削減	↓	30%
品質向上	↑	検証中

労働時間の削減	↓	20%
---------	---	-----

労働時間の削減	↓	80%
---------	---	-----

※農業新技術の現場実装推進プログラム、農業新技術カタログより